

### Tokorozawa ウォーキング

### 西所沢駅 かしゃたん 火車站の碑

西武池袋線の西所沢駅を降りると、左手に「小手指火車站創設之碑」という記念碑が建っています。「火車」は汽車の意で「站」は停車場や駅のことを意味します。この碑は大正8年4月に建てられたもので、停車場ができたことを記念して、当時の所沢町の有力者と小手指村の人々によって建てられました。

西所沢駅は、大正4年4月15日に武蔵野鉄道(現在の西武池袋線)の開業と同時にできた駅です。当初は「小手指停車場」と称していました。碑文を読むと、駅の設置が小手指村の人々の願望であったことがわかります。

ところで武蔵野鉄道は明治43年末ごろから計画され、翌年所沢町・飯能町の有力者らによって申請されました。路線は、池袋を起点として所沢を通り豊岡(入間市)から飯能に至るというものでした。しかし一方で、川越鉄道(現在の西武新宿線)でも入間から飯能へ向う支線が計画され両者が競合することになりました。結局武蔵野鉄道が認められたわけですが、敷設が本格化すると路線や駅の設置をめぐる、問題がおこりました。

西所沢駅付近は当時の通称で地蔵山と呼ばれ、所沢町内では、地蔵山停車場を設置するかどうかで論争がおこりました。同町内の一部の人たちから、町内に2つの駅ができると町が衰退するという意見が出されたのです。この論争は最終的に所沢停車場に必ず連結することで合意に達したそうです。

武蔵野鉄道の計画が持ち上がった明治43年は、ちょうど政府の鉄道政策の転換が図られた時期でした。それまで政府は主要都市間を結ぶ幹線の敷設を重視していましたが、地方都市間を結ぶ路線など地方ローカル線の敷設に力を入れるようになったのです。武蔵野鉄道もそうした中の一つでした。

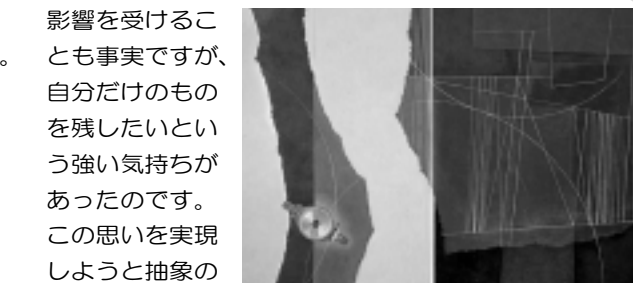
小手指停車場は大正7年に西所沢停車場と改称し、同14年には全線が電化されました。改めて碑文を見ると、鉄道の敷設と停車場の設置は当時から地域にとって産業経済を大きく左右する問題であったことがわかります。

西武ライオンズの三井選手を招き、広く市民の皆さんに暴力団排除を呼びかけました。11月26日(月)/所沢駅周辺



▲西武ライオンズの三井選手を招き、広く市民の皆さんに暴力団排除を呼びかけました。11月26日(月)/所沢駅周辺

### 描き続けることが生きること



▲シルエットの奏楽(内閣総理大臣賞)

影響を受けることも事実ですが、自分だけのものを残したいという強い気持ちがあったのです。この思いを実現しようとする世界へと向かいました」とその時の心境を話します。

現在、『時間と空間』をテーマに10作の連作に取り組み、既に7作品が完成しています。時間の空間とスペースとしての空間のつながりがキャンパス上で抽象的に表現され、見るものを不思議な世界へと誘います。今後の目標はどの問いかけには、「自分だけの個性をさらに確立するための、新しいテーマを見つけ出すことです。これが生きる証でもあるのです」と描き続けることに対する強い意思を語ってくれました。

静かな物腰に秘められた情熱。柔らかな冬の日差しの中で、今日もキャンパスに向かいます。

### みんなの広場



▲市営競輪活性化を目指し、ゲストに武豊騎手等と交え、多彩で豪華なイベントが開催されました。11月26日(月)/西武園競輪場内サイクルシアター



▲青く澄んだ空のもと、所沢シティマラソンが開催され、日ごろの練習成果を競いあいました。12月2日(日)/西武ドーム



▲西武ライオンズの三井選手を招き、広く市民の皆さんに暴力団排除を呼びかけました。11月26日(月)/所沢駅周辺

### 街かどズームイン ZOOM in

皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「期待すること」▶新しい年を迎え、皆さんはどんなことを期待しますか▶スポーツ界に、芸能界、家族や恋人等へ▶期待は膨らむばかりです。皆さんの楽しいお話をお待ちしております▶締め切りは1月15日(必着)▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先:〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所広報広聴課「みんなの広場」係

#### 起承転結

喜多町・稲垣 直美

漫画と称されるものはたくさんあるが、中でも私は4コマ漫画が大好きだ。起承転結の基本となる構成で、若者男女を問わず誰にでも楽しめる、思わずほほえんでしまうところが心地良い。元をたどれば漢詩に由来するようだが、今となっては、立派な日本の文化と言える。

1コマ目で4コマの目の落ちが予想できないのが、4コマ漫画の最大の魅力であり神髄だと思う。4コマという限られたスペースでとてもわかりやすく、しかもスマートに万人の心をつかみ取るの技術や才能はなんとも言えない。読者の私としては1本に書かれた感じが否めない。

シンプルだからこそ難しい4コマ漫画。中でも私は、所沢の漫画作家が描く「あわせラッキーハンダ」が大好きだ。

シンプルだからこそ難しい4コマ漫画。中でも私は、所沢の漫画作家が描く「あわせラッキーハンダ」が大好きだ。

#### ご覧いただきありがとうございます

●所沢レポート  
1月1日(日)午前7時50分～9時  
9時～午後5時20分～30分放映  
●市長・新春に語る  
1月17日(木)午後1時55分～2時  
2時～午後5時55分～10時放映

●読者サービス  
●電話予約(48)・5(8)×発行36  
●5(8)×高(77)×ワンダーテール  
(幅68)×発行1(8)×高(42)  
●リッシャー(食器棚)小)×加温器×掃除機  
●電気敷毛布×ロッキングチェア本系用×歩  
行器×電動車  
●求めます  
●食卓テーブルセット×ペーパー  
シート(新生活用)×大人用自転車×電子  
ピアノ×大正琴×ポータブルミニコン  
●ロッキングチェア本系用×シート  
●受付方法 電話による先着順で紹介し  
ます。1月4日(金)から受け付けます。利用者は所  
沢市民に限ります。  
●休館日 月曜日 祝休日  
●申し込み 問い合わせ リサイクルふれあい  
館(☎04-0000)

### リサイクルふれあい館 不用品ガイド



### テーマ "マンガ大好き"

地方の片田舎で育った私にとって、マンガは都会のあこがれそのものでした。当時は発売日を迎えても、都会の子どものようにもてはやされていません。女の子が大好きなピンク系の表紙を手にした、いつか夢がかなうかなと期待していた。ヘッスをめぐる「マンガ」になっていく。ヘッスをめぐる「マンガ」になっていく。ヘッスをめぐる「マンガ」になっていく。

夢を運ぶという夢のヘッス。並木・横須賀 みどり

私は、某月刊誌「楽しい我が家」を愛読しています。毎月変わるのを楽しんでいます。世界遺産エッセイ、時事評論など、その多彩な内容を愛読しています。痛快な漫画のヘッスにめぐる「マンガ」になっていく。

私は、某月刊誌「楽しい我が家」を愛読しています。毎月変わるのを楽しんでいます。世界遺産エッセイ、時事評論など、その多彩な内容を愛読しています。痛快な漫画のヘッスにめぐる「マンガ」になっていく。

#### 思ひこころに響く

北高岡 大野 喜久子

戦後の混乱期に育った私の楽しみは、マンガが大好きです。登場する主人公はみんな、家族や友人達の明るいキャラクターや、奇想天外な事件の末に胸をわくわくさせ、読みかかっています。雑誌や単行本は友達との貸借のりかきで、これも結構楽しかったのを覚えています。年齢問わずに読めるマンガの世界からは、

戦後の混乱期に育った私の楽しみは、マンガが大好きです。登場する主人公はみんな、家族や友人達の明るいキャラクターや、奇想天外な事件の末に胸をわくわくさせ、読みかかっています。雑誌や単行本は友達との貸借のりかきで、これも結構楽しかったのを覚えています。年齢問わずに読めるマンガの世界からは、

#### 次回テーマは「期待する」

### はつらつと 野老っ子



かさい 嘉齋さん (荒幡在住)

東狭山ヶ丘・川勝 信幸  
マンガで思い出出すのは、小学生のころから。少年誌連載には、黒魔術を扱っているのが珍しい印象が強かった。

最近でも映画化された「期待する」が、主人公黒井ミサのモデルは、作者古賀新一先生に言わせると、何と美空ひばりさん。また、連載時、古賀先生は所沢市在住で、狭山湖でアイラブを練ることもあったという。

黒魔術のパワー  
私たちが幼いころの山村では、本は非常に少なく、年長の小学生がもっていた少年倶楽部などは最高級の文化でありました。

新聞の日曜版に連載されている「あたし」が大好きです。普段の生活の何気ないエピソードを面白く切り取って笑えます。

黒魔術のパワー  
私たちが幼いころの山村では、本は非常に少なく、年長の小学生がもっていた少年倶楽部などは最高級の文化でありました。

新聞の日曜版に連載されている「あたし」が大好きです。普段の生活の何気ないエピソードを面白く切り取って笑えます。

黒魔術のパワー  
私たちが幼いころの山村では、本は非常に少なく、年長の小学生がもっていた少年倶楽部などは最高級の文化でありました。

新聞の日曜版に連載されている「あたし」が大好きです。普段の生活の何気ないエピソードを面白く切り取って笑えます。

黒魔術のパワー  
私たちが幼いころの山村では、本は非常に少なく、年長の小学生がもっていた少年倶楽部などは最高級の文化でありました。

新聞の日曜版に連載されている「あたし」が大好きです。普段の生活の何気ないエピソードを面白く切り取って笑えます。

黒魔術のパワー  
私たちが幼いころの山村では、本は非常に少なく、年長の小学生がもっていた少年倶楽部などは最高級の文化でありました。

新聞の日曜版に連載されている「あたし」が大好きです。普段の生活の何気ないエピソードを面白く切り取って笑えます。

黒魔術のパワー  
私たちが幼いころの山村では、本は非常に少なく、年長の小学生がもっていた少年倶楽部などは最高級の文化でありました。

新聞の日曜版に連載されている「あたし」が大好きです。普段の生活の何気ないエピソードを面白く切り取って笑えます。